



2023年3月期 決算説明会用資料

2023年5月26日



RHEON[®]

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード (6272)

1. 2022年度 連結決算概況
2. 2023年度 連結業績予想
3. 新中期経営計画（2023-2027年度）

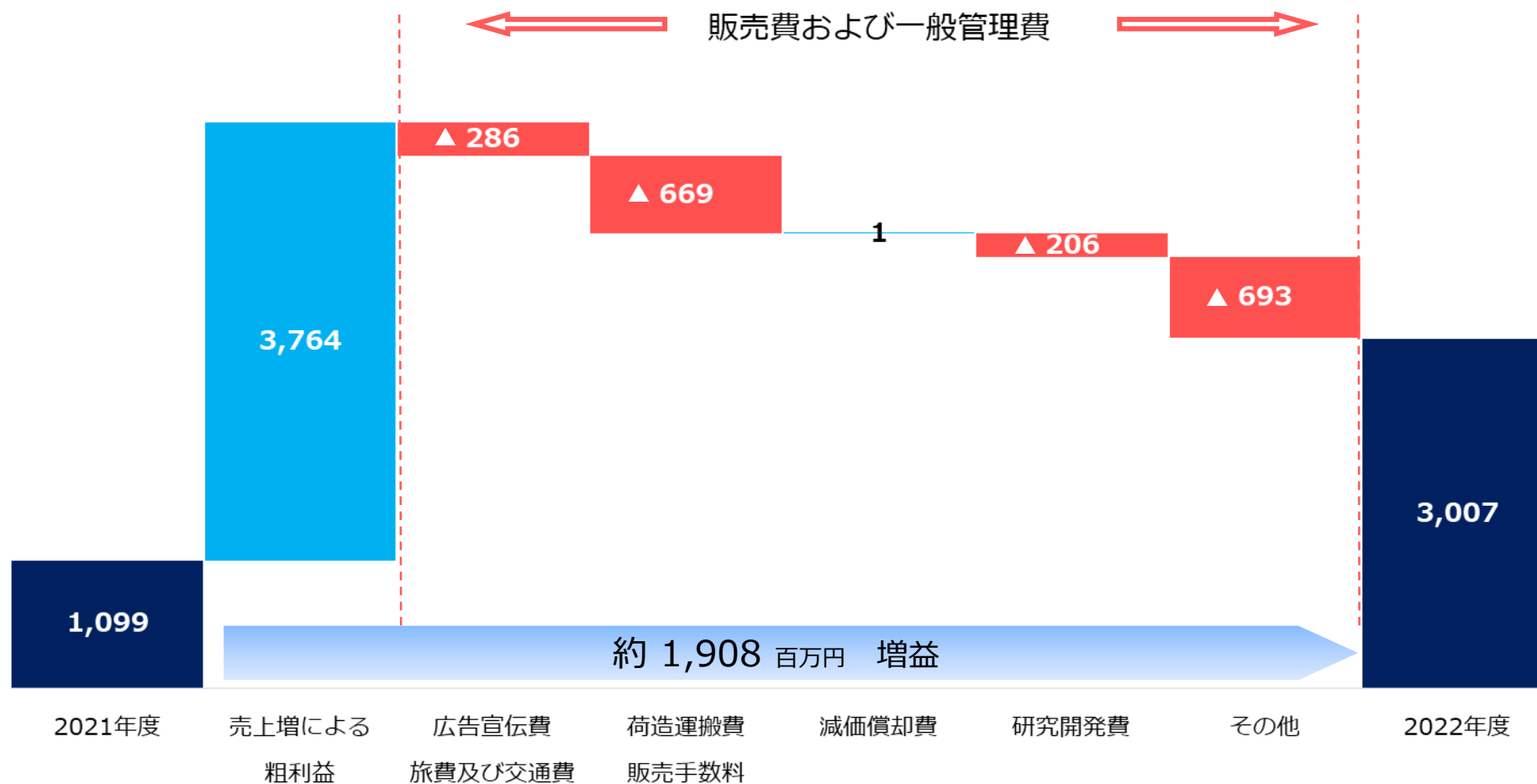
1. 2022年度 連結決算概況
2. 2023年度 連結業績予想
3. 新中期経営計画（2023-2027年度）

連結計算書サマリー

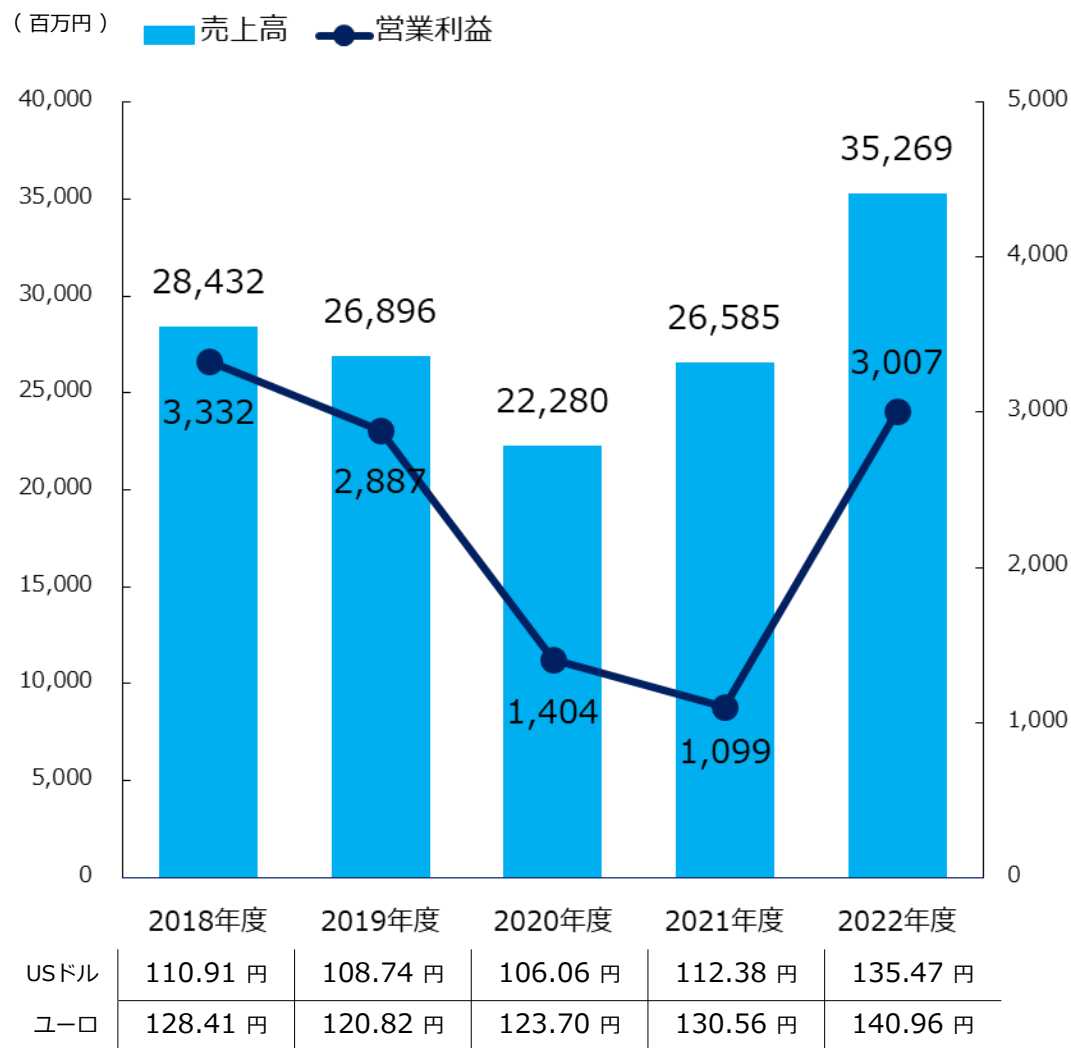
| (百万円) | 2021年度 実績 | 2022年度 計画 (2023年2月10日) | 2022年度 実績 | 増減率 (%) |
|---------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------|
| 売上高 | 26,585 | 35,100 | 35,269 | 32.7 % |
| 営業利益 | 1,099 | 2,540 | 3,007 | 173.5 % |
| 経常利益 | 1,468 | 2,690 | 3,209 | 118.6 % |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 1,486 | 2,190 | 2,737 | 84.1 % |
| ROE | 5.4 % | — | 9.2 % | — |
| EPS | 55.47 円 | 81.70 円 | 102.13 円 | — |
| 配当 | 16.00 円 | 未定 | 31.00 円 | — |
| 期中平均為替レート | USドル=112.38 円 ユーロ=130.56 円 | USドル=120.00 円 ユーロ=130.00 円 | USドル=135.47 円 ユーロ=140.96 円 | — |

営業利益増減

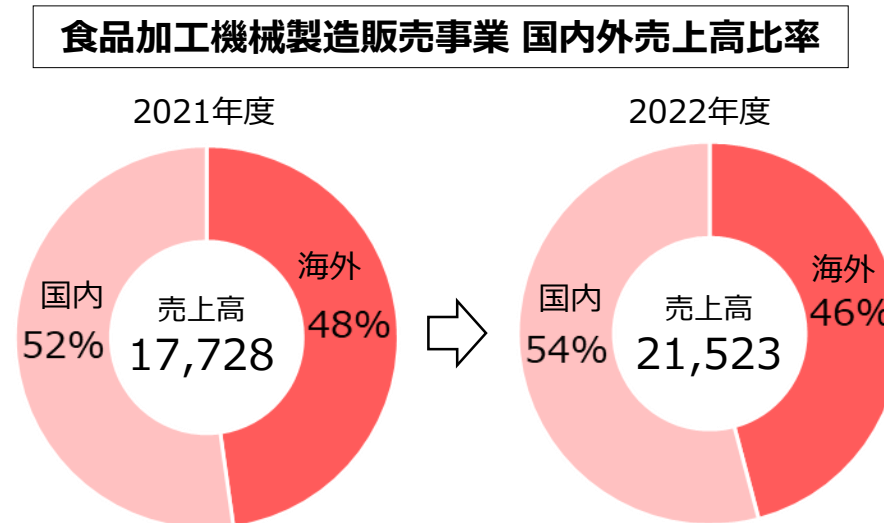
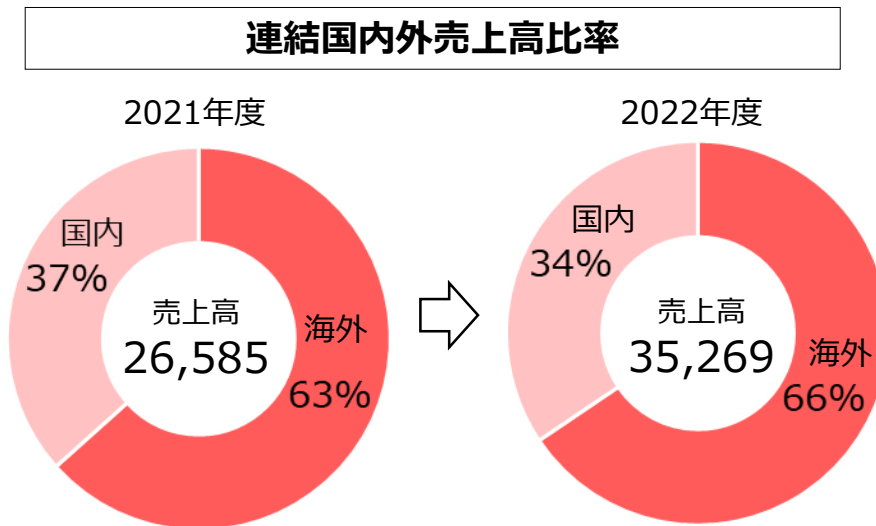
(百万円)



過去5年の業績推移



(百万円)



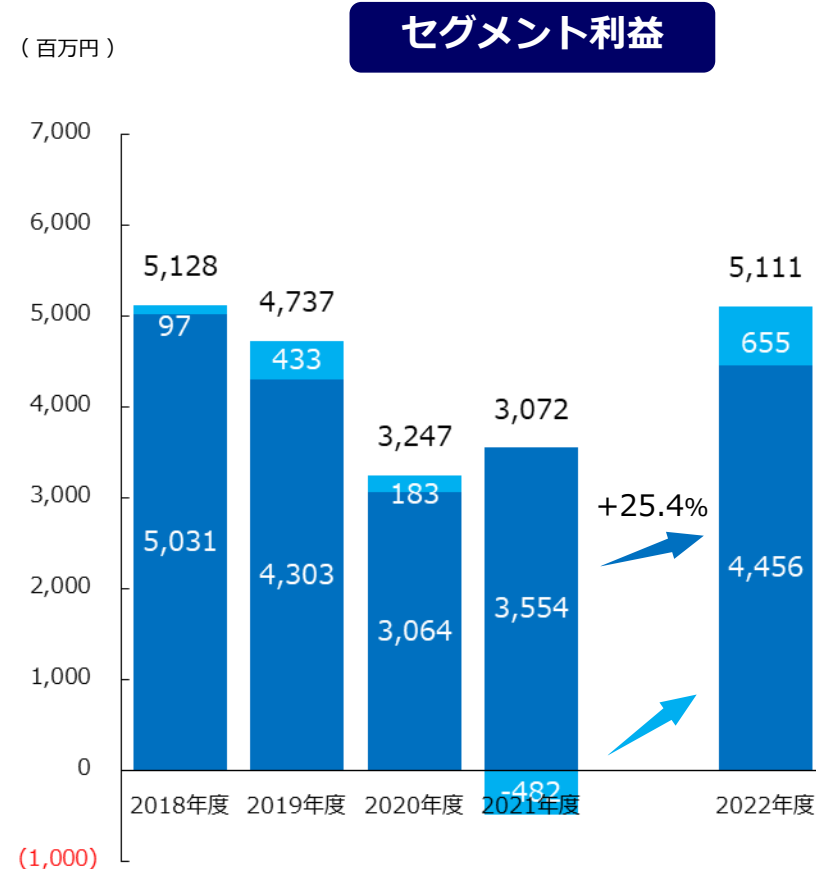
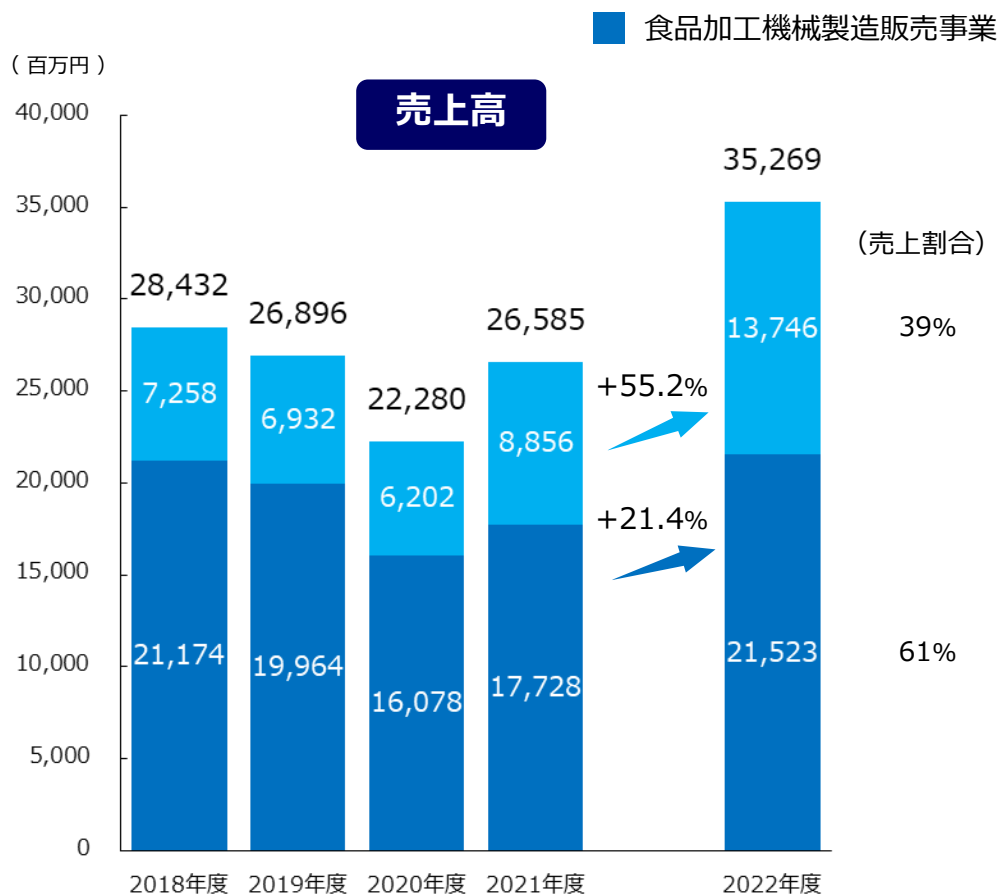
食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高・セグメント利益》

食品加工機械製造販売事業

国内、海外ともに経済が回復し、設備投資が増加。

食品製造販売事業

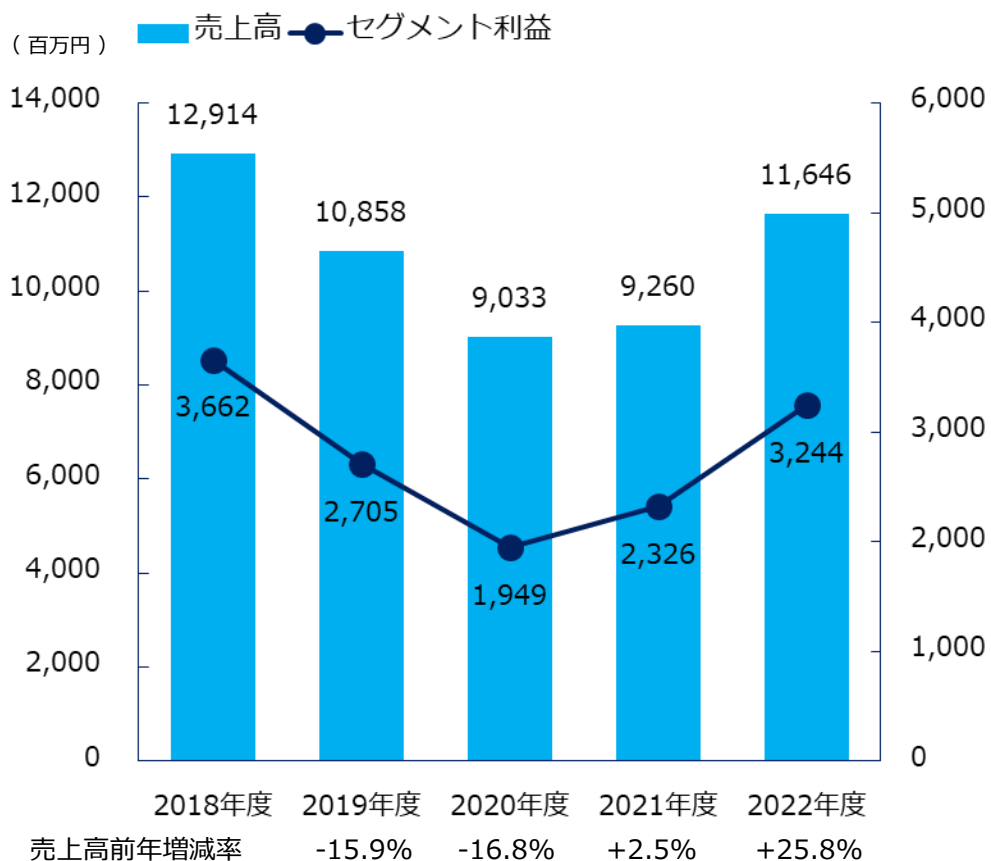
アメリカにおいて売上およびセグメント利益が増加。



食品加工機械製造販売事業 日本 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

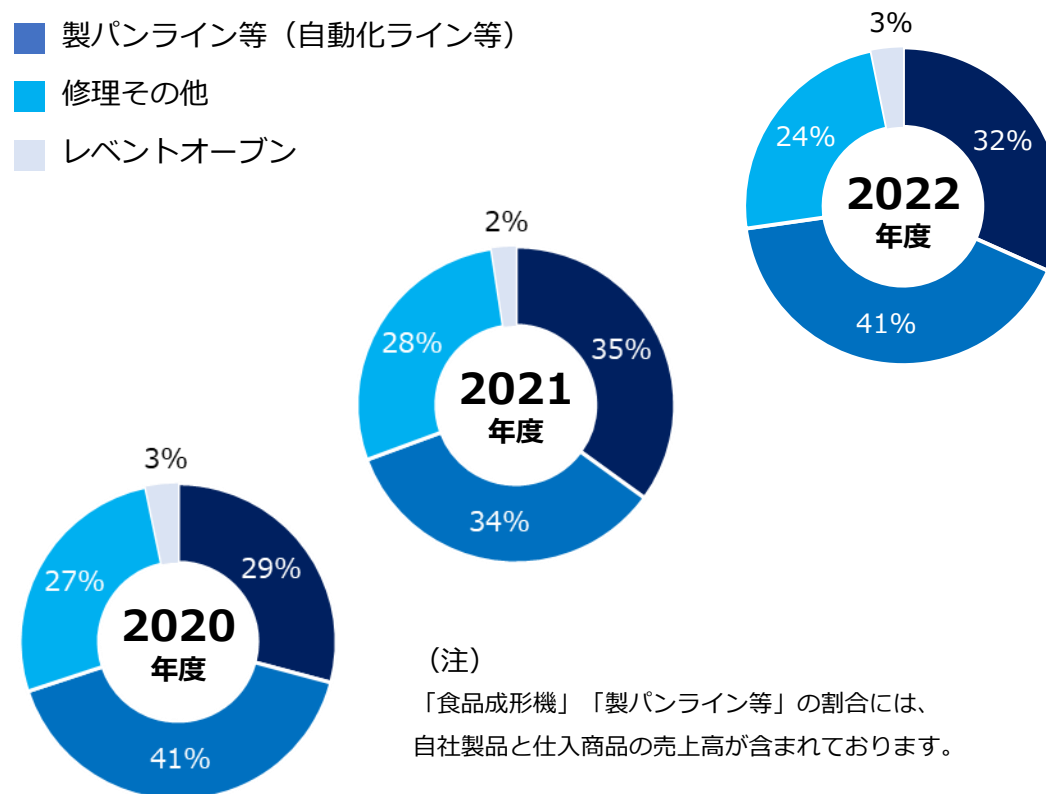
- ・観光土産の低迷が続くが、スーパーマーケットやコンビニ関連の投資が増加。
- ・包あん機などの単体機は、調理・冷食および和菓子卸し向けに販売が増加。

売上高・セグメント利益



売上高内訳

- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他
- レベントオープン

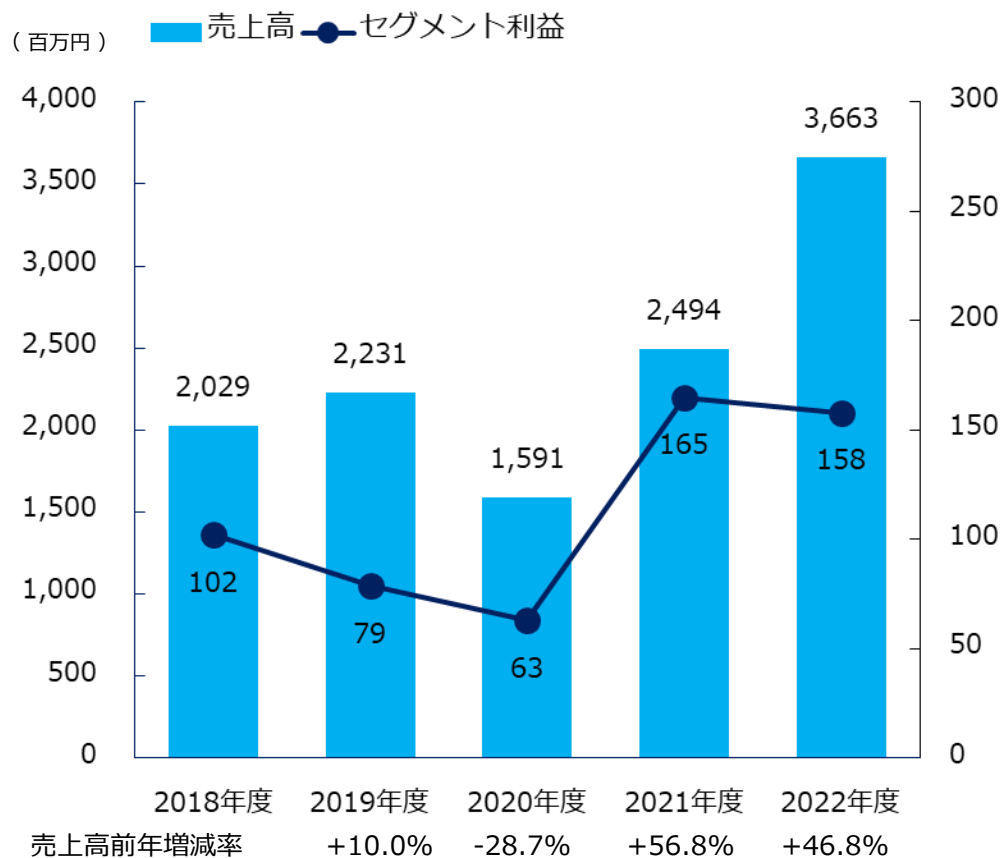


(注)
「食品成形機」「製パンライン等」の割合には、
自社製品と仕入商品の売上高が含まれております。

食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

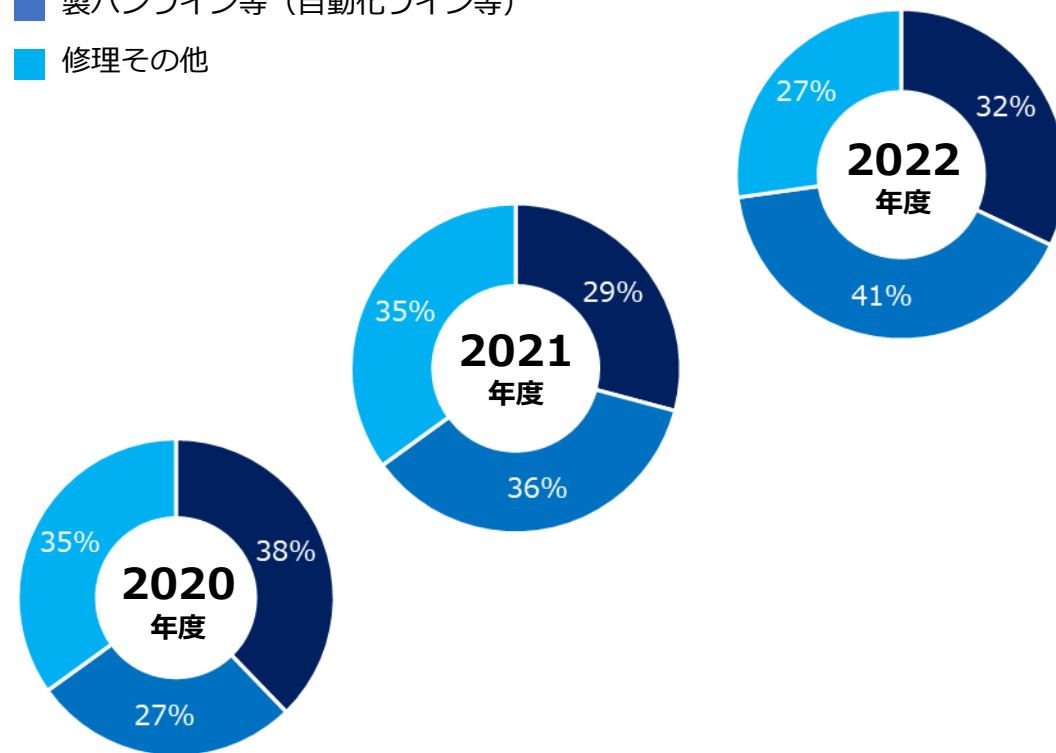
- ・ 人件費高騰や労働力不足の状況が続き、生産現場では自動化への投資が活発に行われた。
- ・ 製パンラインにおいては、複数の自動化大型ラインの受注により売上が増加。

売上高・セグメント利益



売上高内訳

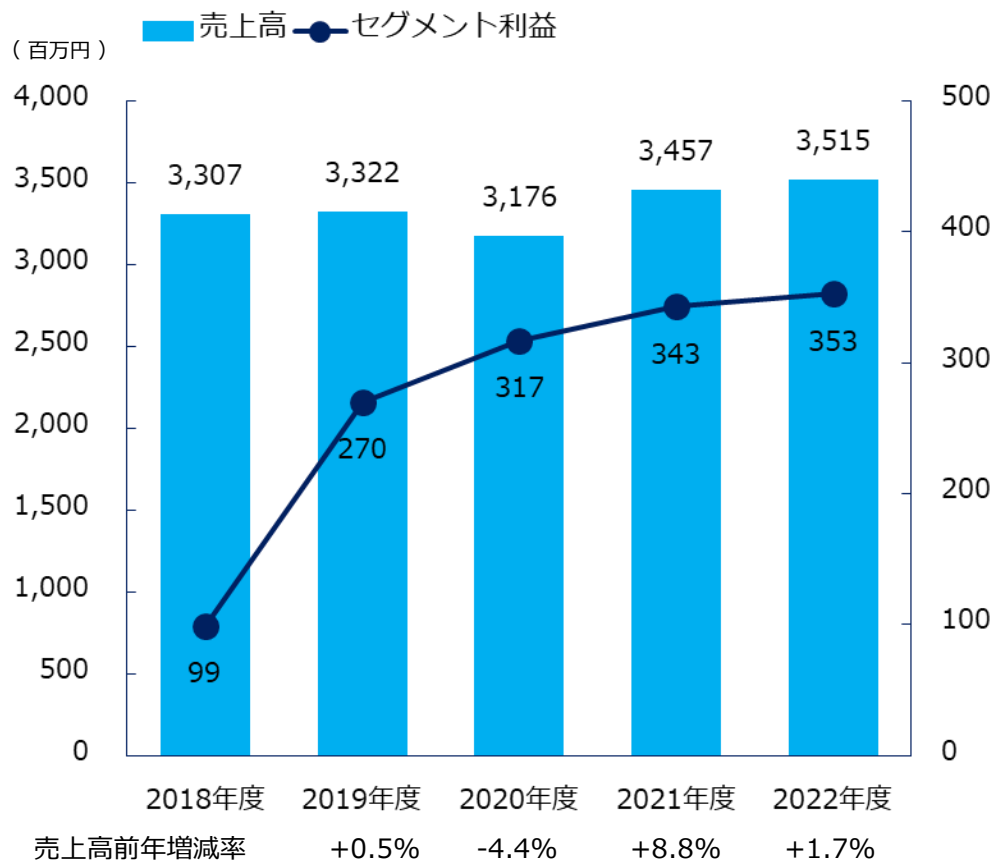
- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他



食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

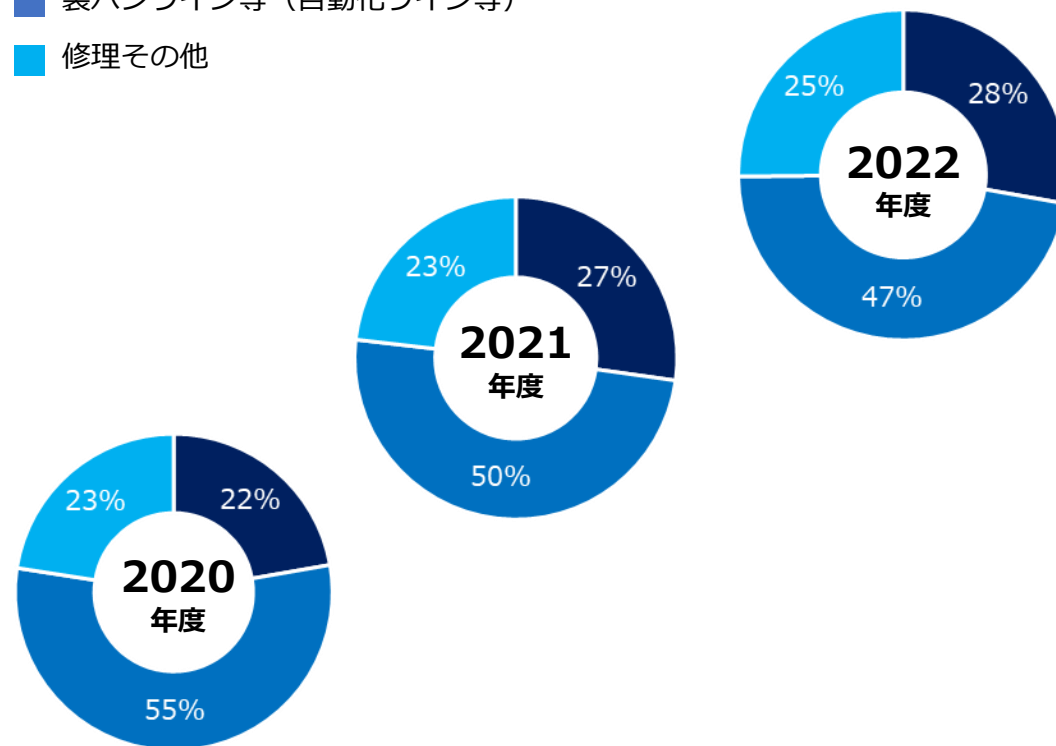
- ・自動化大型ラインの受注は減少したものの、主力モデルである小型製パン機の販売は好調を維持。
- ・包あん機などの単体機は、スーパーマーケット向け菓子や調理製品の需要が堅調。

売上高・セグメント利益



売上高内訳

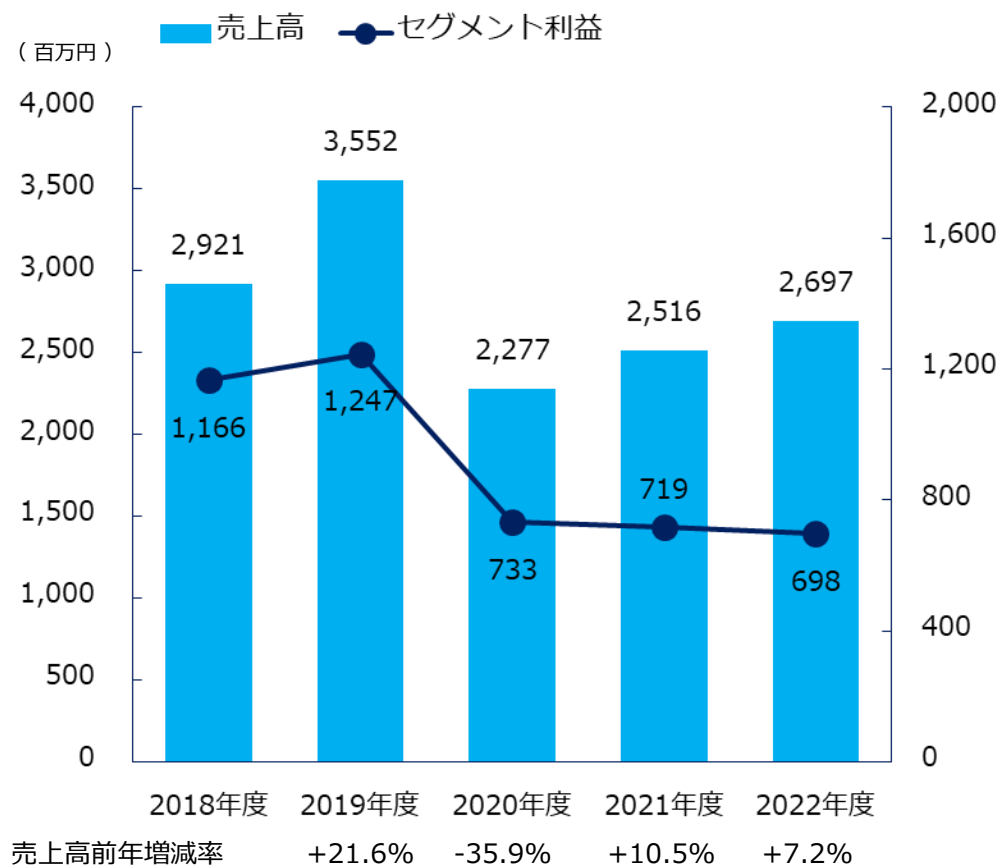
- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他



食品加工機械製造販売事業 アジア 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

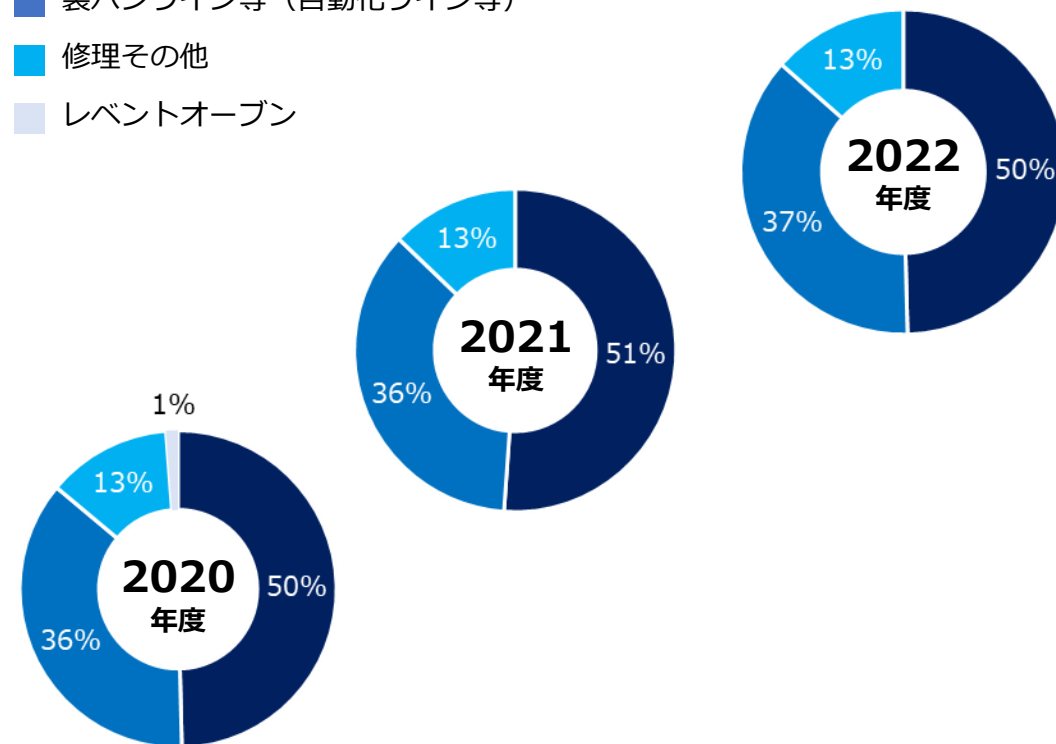
- ・ 中国ではコロナ感染症の影響により活動制限があったものの、自動化大型ラインの受注があり、売上を維持。
- ・ 東南アジアでは活動制限が緩和され、営業活動が早くから再開できたことにより売り上げが回復。

売上高・セグメント利益



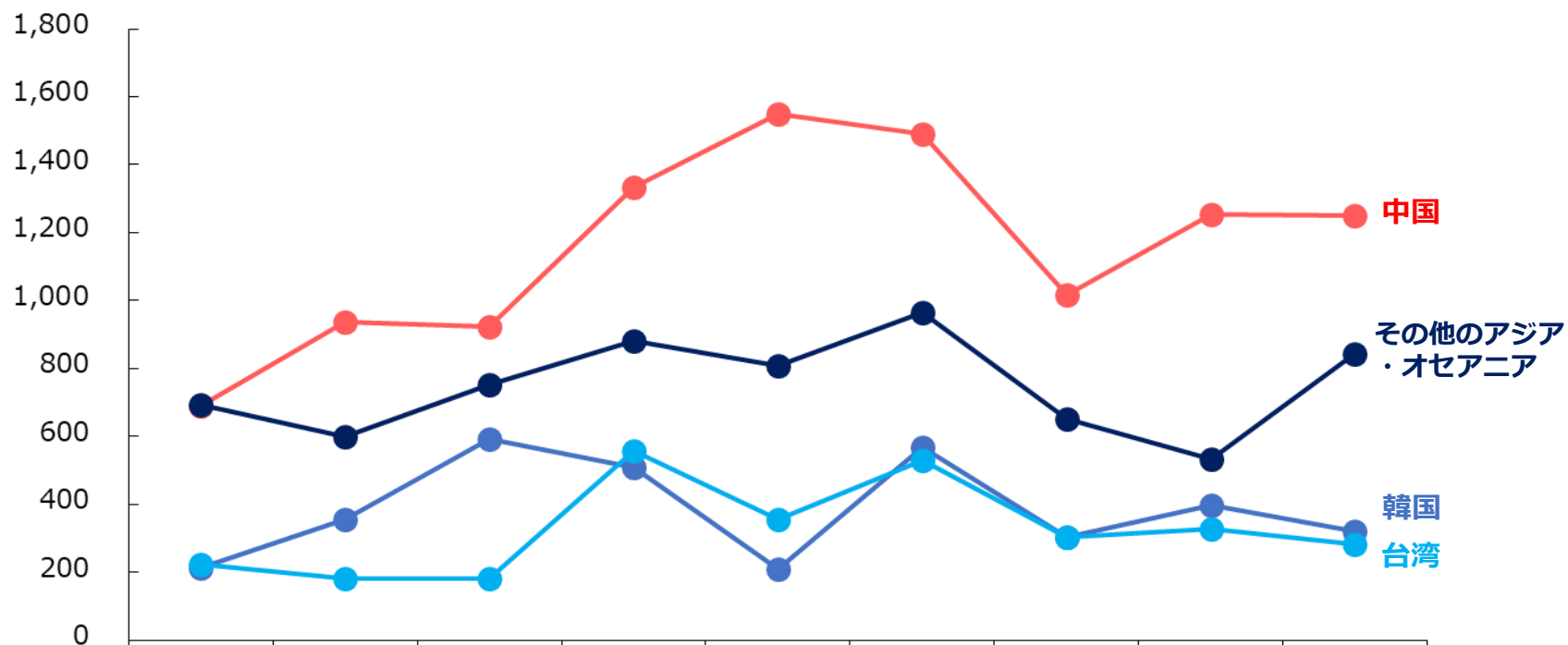
売上高内訳

- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他
- レベントオープン

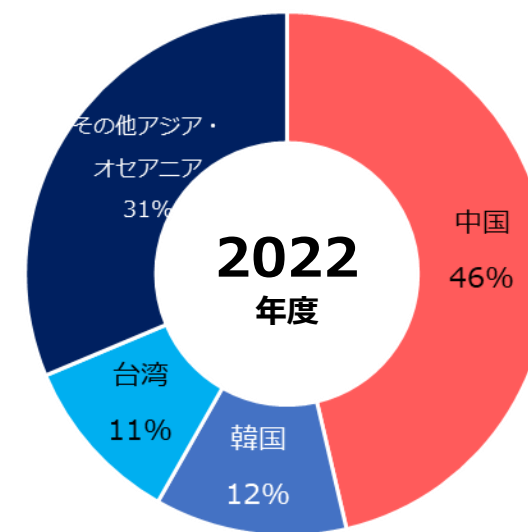
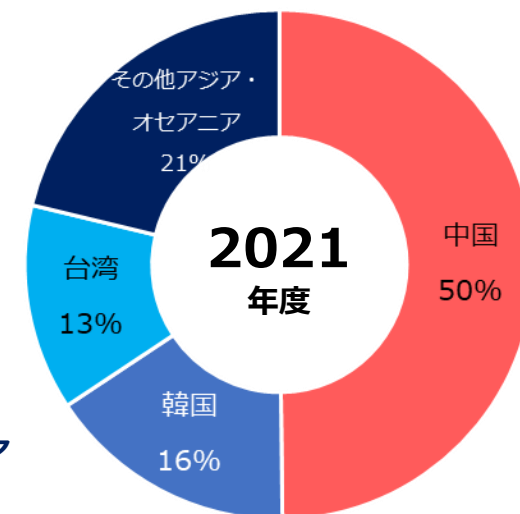


アジア国別 売上高推移

(百万円)



| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 中国 | 690 | 937 | 922 | 1,335 | 1,550 | 1,489 | 1,018 | 1,253 | 1,250 |
| 韓国 | 213 | 355 | 593 | 509 | 208 | 569 | 303 | 399 | 320 |
| 台湾 | 222 | 182 | 182 | 559 | 354 | 528 | 302 | 329 | 281 |
| その他 アジア・オセアニア | 692 | 600 | 754 | 881 | 809 | 964 | 653 | 534 | 844 |



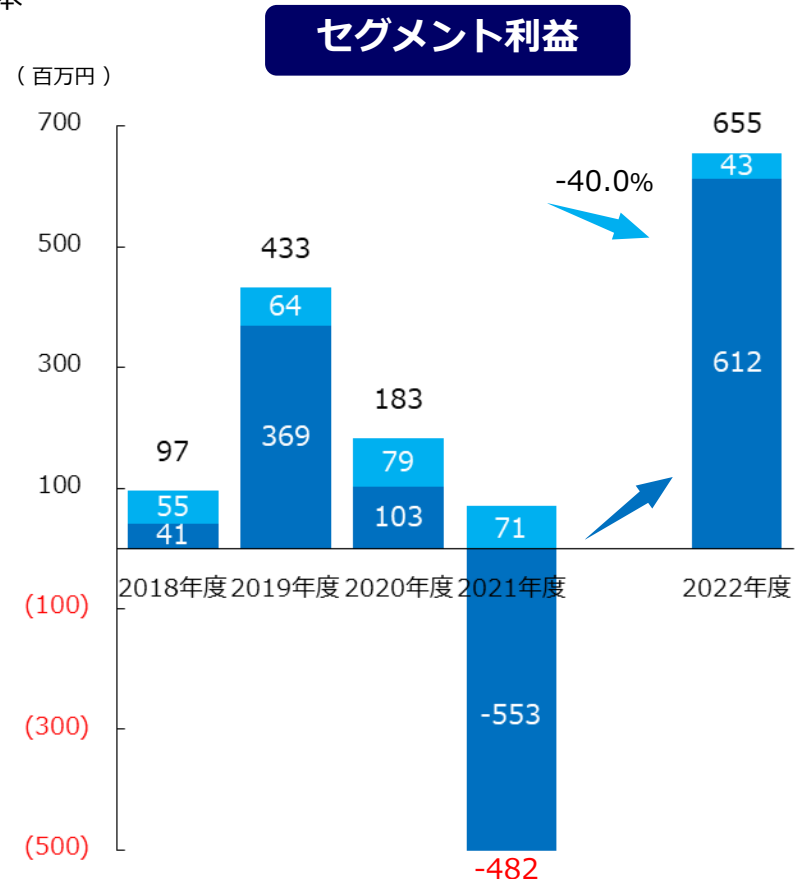
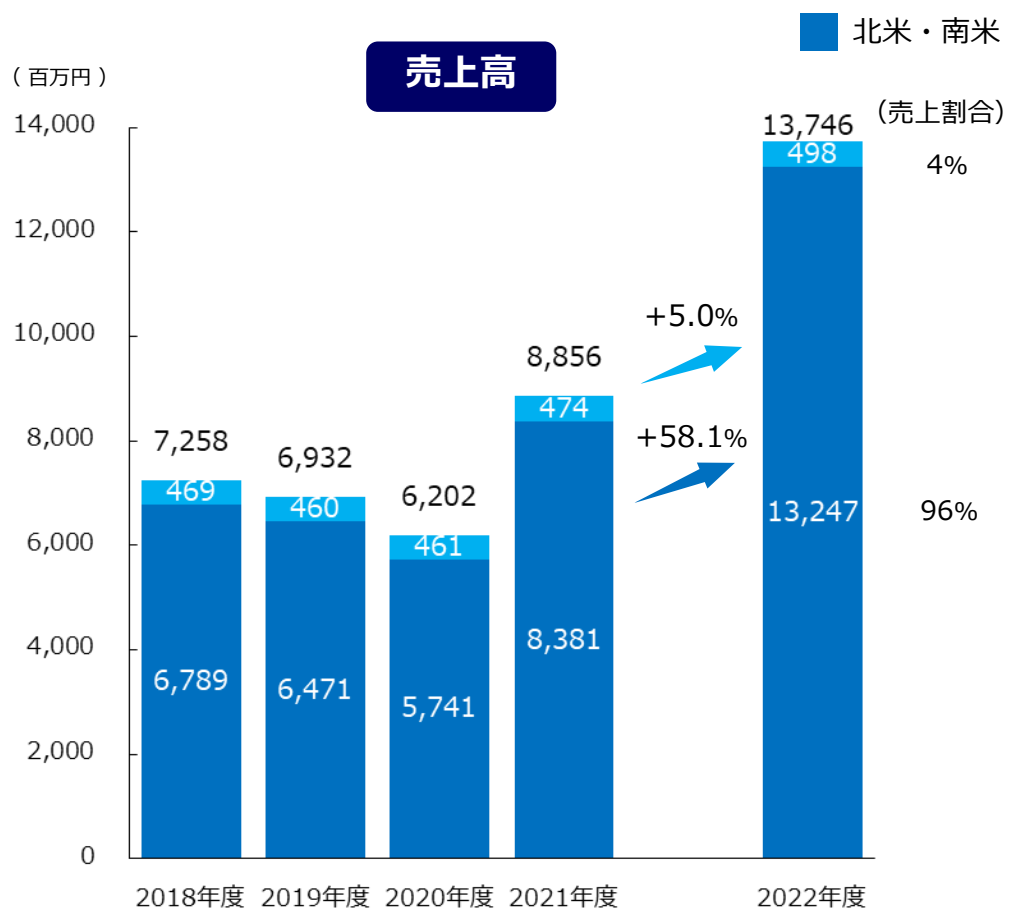
食品製造販売事業 《地域別売上高・セグメント利益》

売上高

- 北米・南米：経済活動の回復や、新規顧客の獲得により売り上げが大幅に増加。
- 日本：大手問屋への売上は増加したが、中小問屋への販売は食品値上げの影響を受け減少。

セグメント利益

- 北米・南米：商品価格の値上げや、運送費など販管費の見直しで利益が回復。
- 日本：原材料や包装材などの値上がり、販管費・一般管理費の増加により利益減少。



連結貸借対照表サマリー

| (百万円) | 2021年度 | | 2022年度 | | | |
|---------|--------|---------|--------|---------|---------|--|
| | 金額 | 構成比 (%) | 金額 | 構成比 (%) | 増減率 (%) | 主な増減要因 |
| 資産合計 | 36,651 | 100 % | 40,212 | 100 % | 9.7 % | — |
| 流動資産 | 19,792 | 54.0 % | 22,663 | 56.4 % | 14.5 % | <ul style="list-style-type: none"> ● 現金及び預金の増加 ● 受取手形及び売掛金の増加 など |
| 固定資産 | 16,859 | 46.0 % | 17,548 | 43.6 % | 4.1 % | <ul style="list-style-type: none"> ● 有形固定資産の増加 ● 投資有価証券の増加 など |
| 負債合計 | 8,274 | 22.6 % | 8,827 | 22.0 % | 6.7 % | — |
| 流動負債 | 6,274 | 17.1 % | 6,948 | 17.3 % | 10.7 % | <ul style="list-style-type: none"> ● 前受金の増加 ● 賞与引当金の増加 など |
| 固定負債 | 1,999 | 5.5 % | 1,879 | 4.7 % | ▲6.0 % | <ul style="list-style-type: none"> ● 長期借入金の減少 |
| 純資産合計 | 28,377 | 77.4 % | 31,384 | 78.0 % | 10.6 % | <ul style="list-style-type: none"> ● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加 |
| 負債純資産合計 | 36,651 | 100 % | 40,212 | 100 % | 9.7 % | — |

連結キャッシュ・フローサマリー

| (百万円) | 2021年度 | 2022年度 | 主な増減要因 |
|----------------|--------|--------|---|
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 7,484 | 10,000 | — |
| 営業活動によるCF | 3,648 | 3,091 | <ul style="list-style-type: none"> ● 税金等調整前当期純利益 3,209 ● 減価償却費 1,176 ● 売上債権 ▲815 |
| 投資活動によるCF | ▲748 | ▲1,113 | <ul style="list-style-type: none"> ● 有形固定資産の取得 ▲766 ● 無形固定資産の取得 ▲351 |
| 財務活動によるCF | ▲565 | ▲677 | <ul style="list-style-type: none"> ● 長期借入れによる収入 100 ● 長期借入金の返済 ▲378 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 2,515 | 1,440 | — |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 10,000 | 11,440 | — |

1. 2022年度 連結決算概況
- 2. 2023年度 連結業績予想**
3. 新中期計画（2023-2027年度）

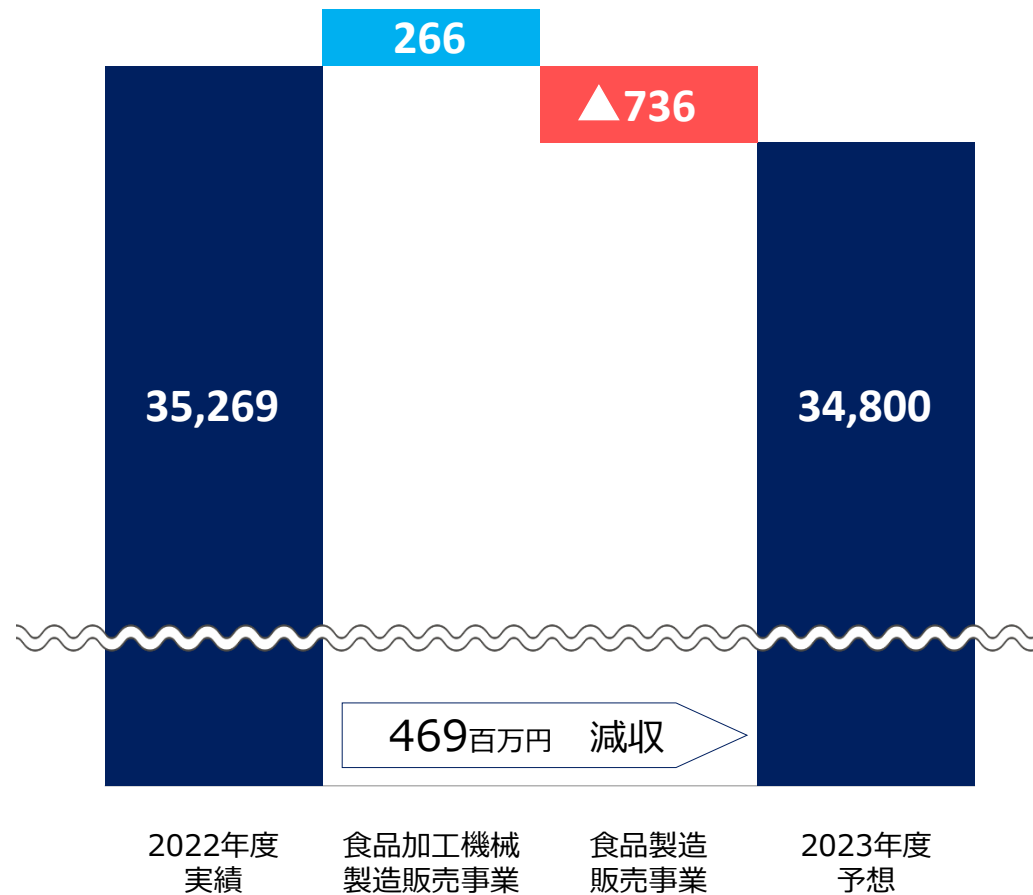
2023年度 連結業績予想

経済は回復しており、増収・増益を見込むが、インフレやエネルギー価格の高騰もあり、依然として先行き不透明感が強い。

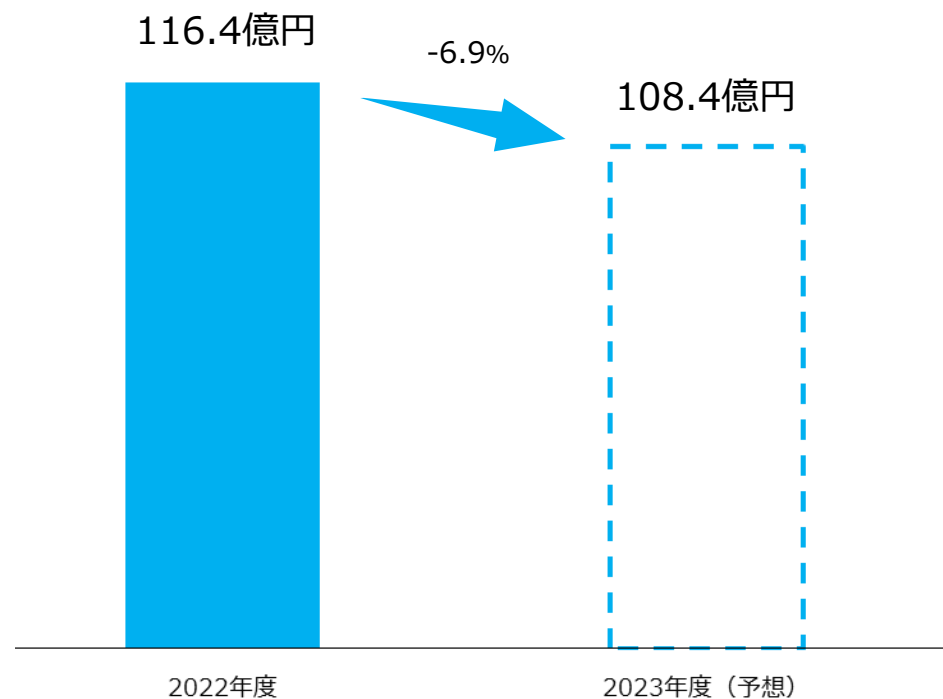
| (百万円) | 2022年度 実績 | 2023年度 予想 | 前年同期比 | 増減率 (%) |
|---------------------|------------------------------|------------------------------|--------|------------|
| 売上高 | 35,269 | 34,800 | ▲469 | ▲1.3 % |
| 売上原価 | 20,703 | 19,680 | ▲1,023 | ▲4.9 % |
| 販管費 | 11,558 | 11,670 | +112 | 1.0 % |
| 営業利益 | 3,007 | 3,450 | +443 | 14.7 % |
| 経常利益 | 3,209 | 3,540 | +331 | 10.3 % |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 2,737 | 2,700 | ▲37 | ▲1.4 % |
| 期中平均為替レート | USドル=135.47円 ユーロ =140.96円 | — | — | — |
| 想定為替レート | — | USドル=125.00円 ユーロ =135.00円 | — | — |

2023年度 売上高の見通し

(百万円)

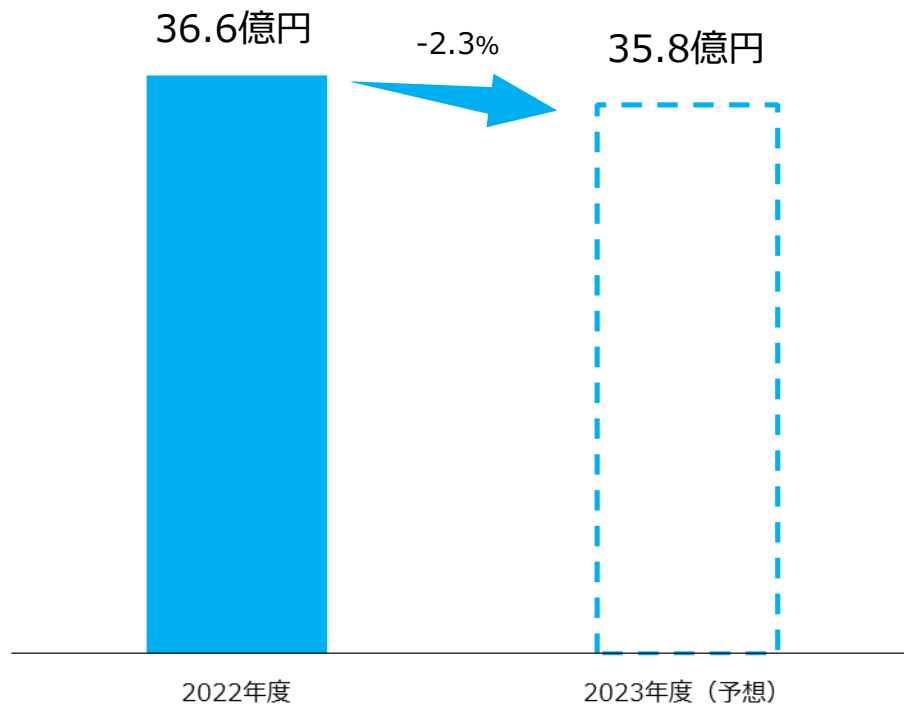


売上高予測



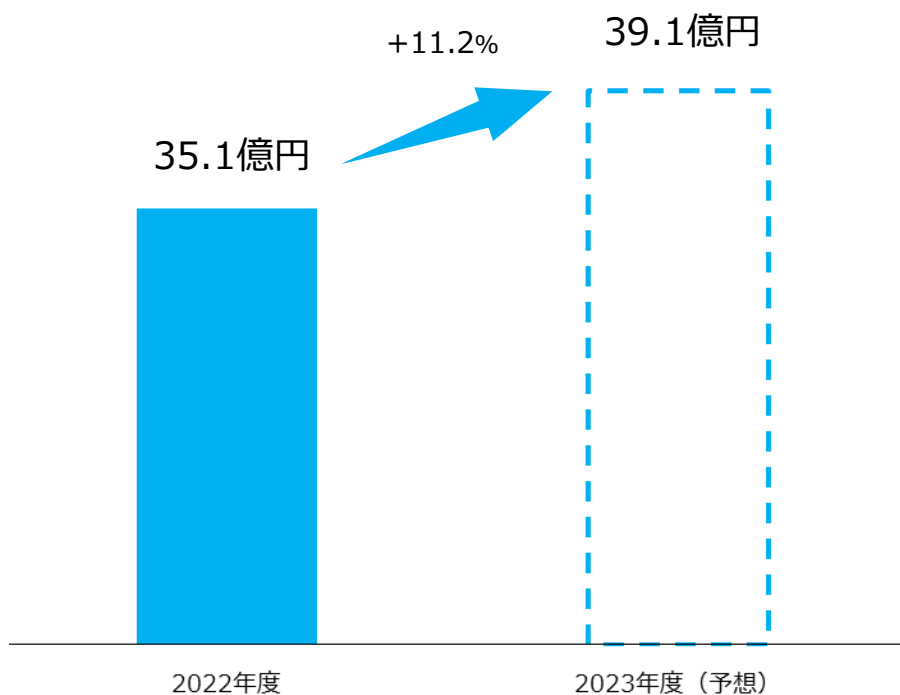
- 大手顧客を中心に製パン設備の合理化需要が見込まれる
- 調理・冷食産業からの設備投資が今後も続くと予想
- インバウンド回復傾向にあるものの、物価上昇による消費の低迷が予想される

売上高予測



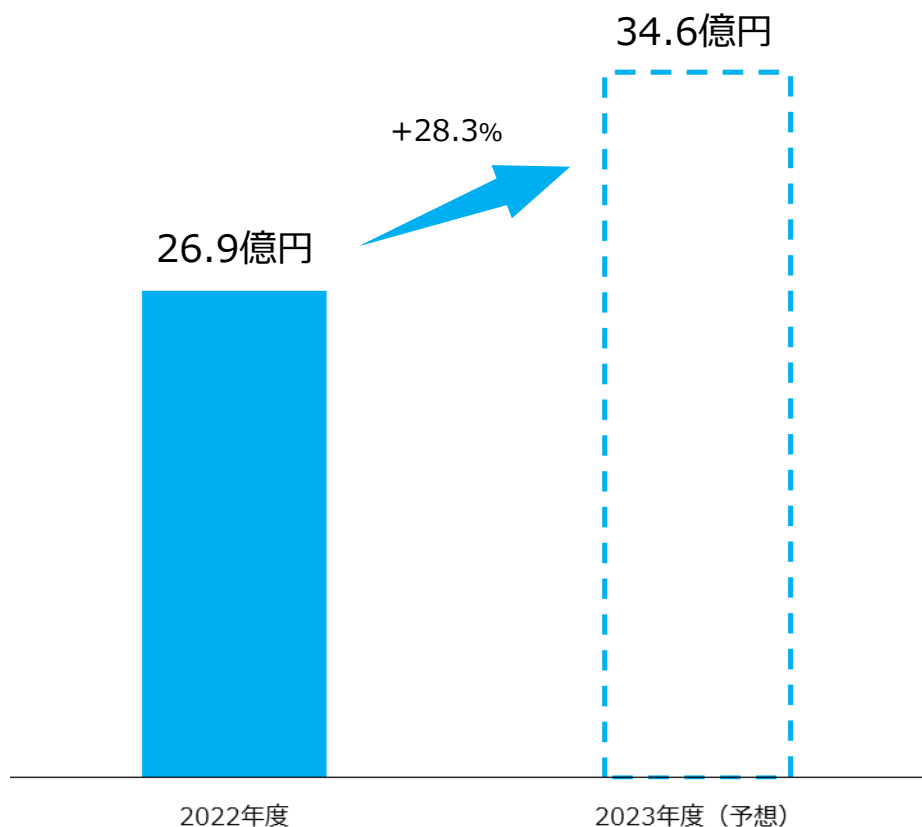
- 労働力不足や生産コスト削減に向けた設備投資の機運が継続
- 自動化ラインでは、北米やカナダにおけるアルチザンブレッドおよびペストリー市場への販売活動強化
- 包あん機は、周辺機器とのセット販売により販売増を見込む

売上高予測



- 省人化対策の設備投資や買い替え需要が進むと予測
- 自動化ラインは、ペストリーラインの販売活動を強化
- 菓子や調理製品、エスニック食品を生産する包あん機は安定した売り上げを維持
- 複数の大型展示会開催により、東欧や中東、アフリカからの見込み客を獲得し、売上増を図る

売上高予測

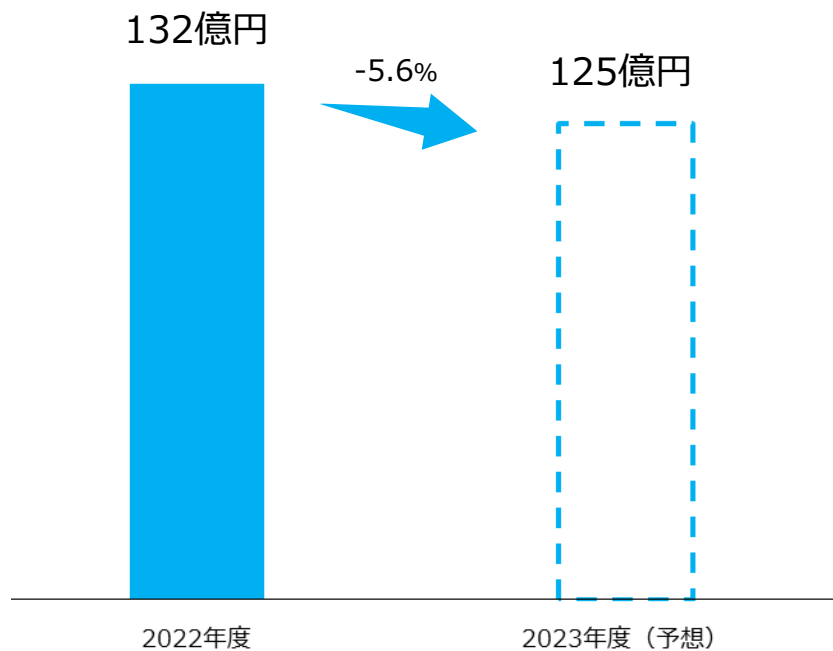


- 中国
 - ・ コンビニやスーパー向け食パン市場へ製パンラインを拡販
 - ・ 対面方式の研究会を再開し、包あん機を拡販
- インド
 - ・ 代理店の活性化や大手顧客への接触強化、現地研究会の実施など営業活動を行う
- 東南アジア
 - ・ 展示会の参加や本社営業スタッフのリアル商談を積極的に推し進める

北米・南米（オレンジベーカリー）

- ・大型スーパーやレストラン向け商品の需要が順調と予測
- ・省人化・省力化推進と現場マネジメント力の強化

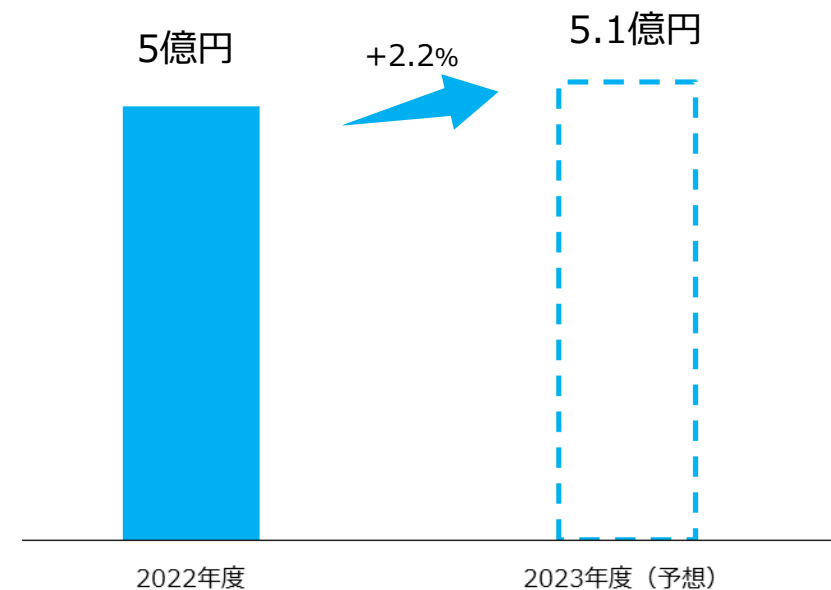
売上高予測



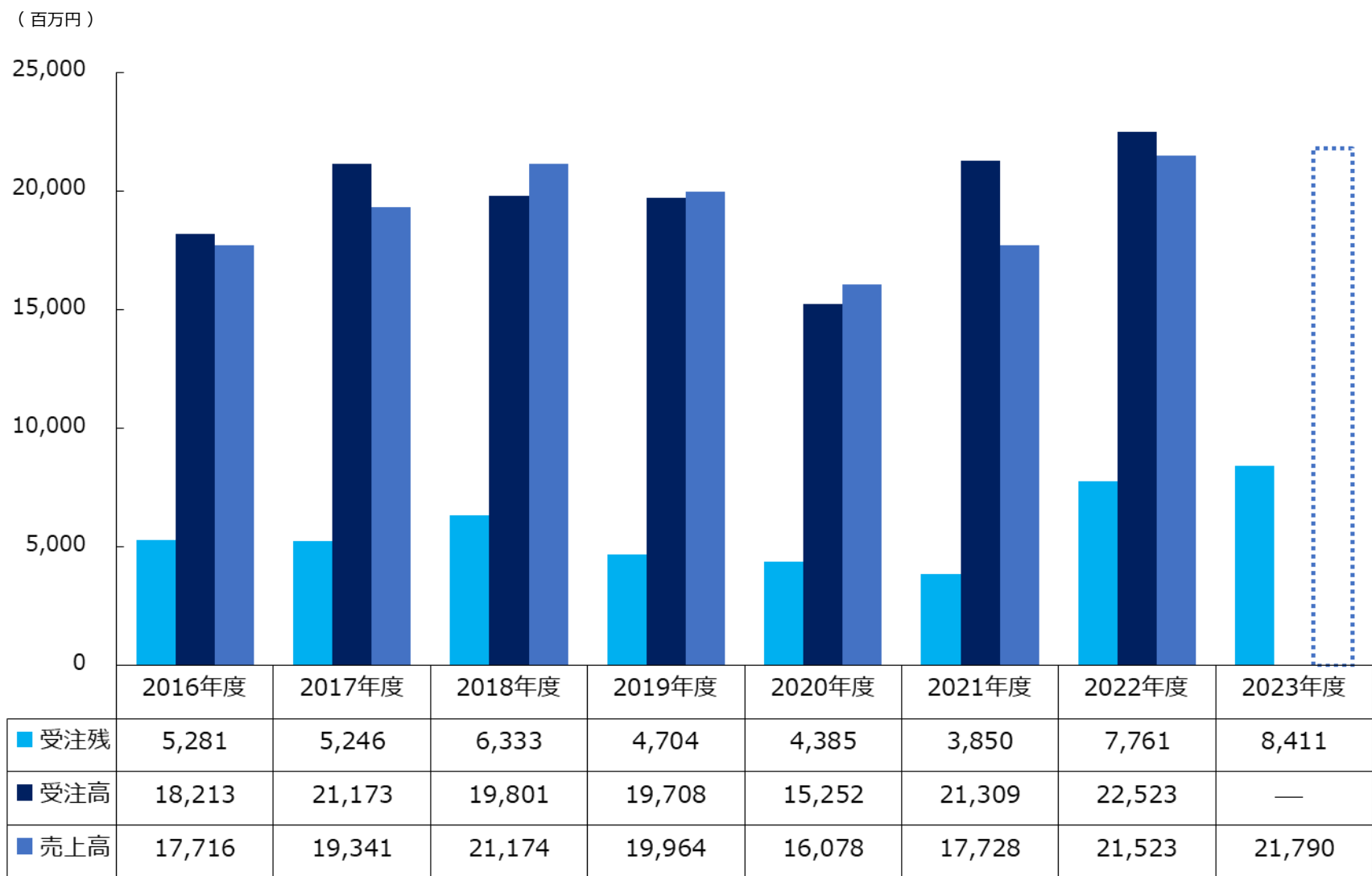
日本（有）ホシノ天然酵母パン種）

- ・ホシノパン種を使用したホイロ後冷凍パンの提案
- ・洋菓子店などへの販路拡大を継続

売上高予測



食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移



※受注残は4月1日時点

設備投資額・減価償却費・研究開発費

2022年度

設備投資の主なものは、上河内工場LED化更新工事や、オレンジベーカーリーの生産設備など。

2023年度

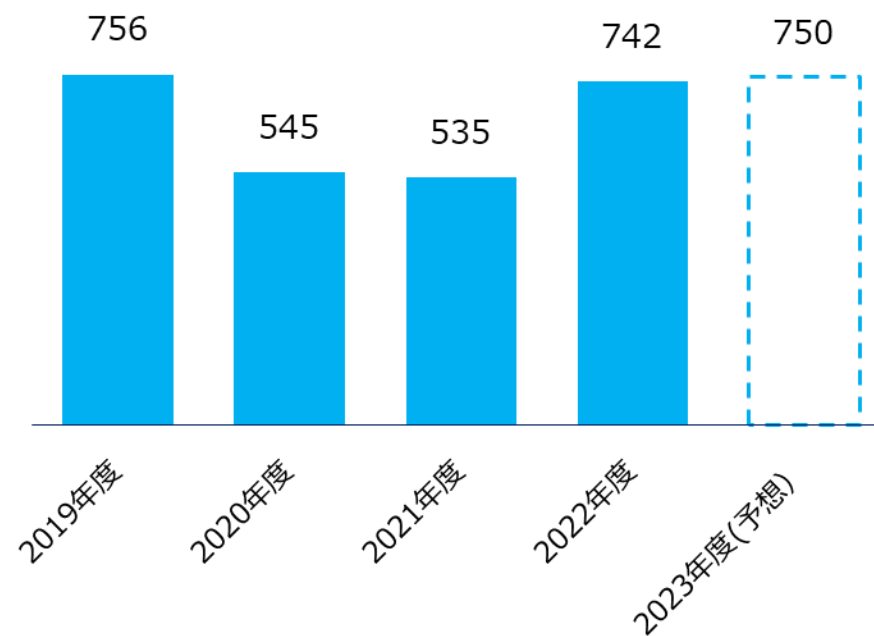
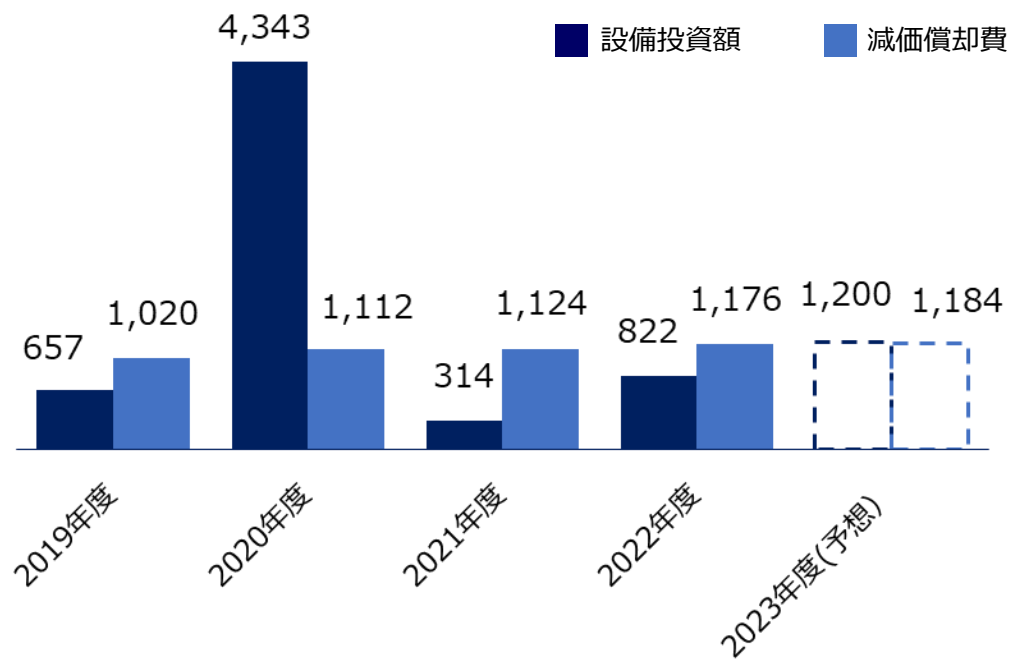
工場の自家消費型太陽光発電設備等およびオレンジベーカーリーの工場設備の投資を実施予定。

設備投資額・減価償却費

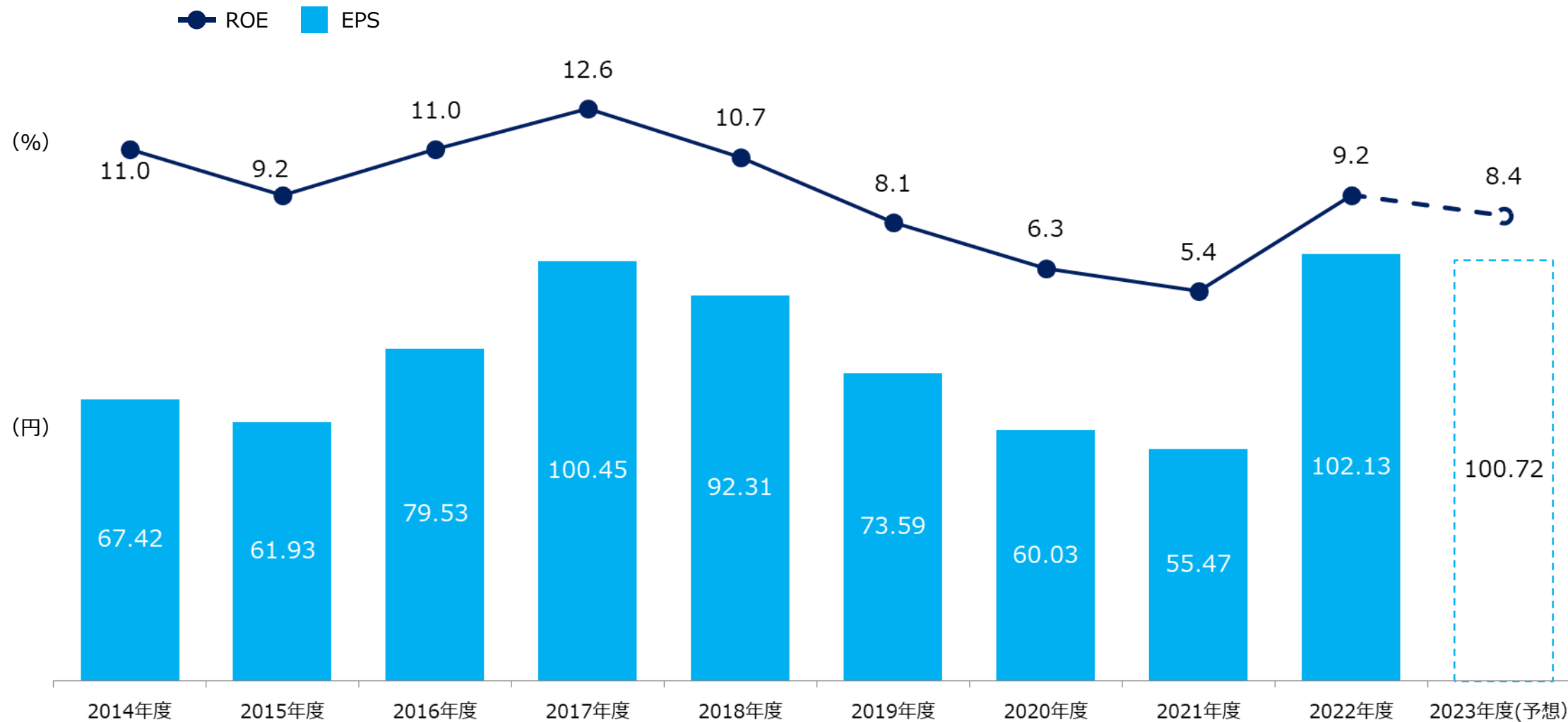
研究開発費

(百万円)

(百万円)

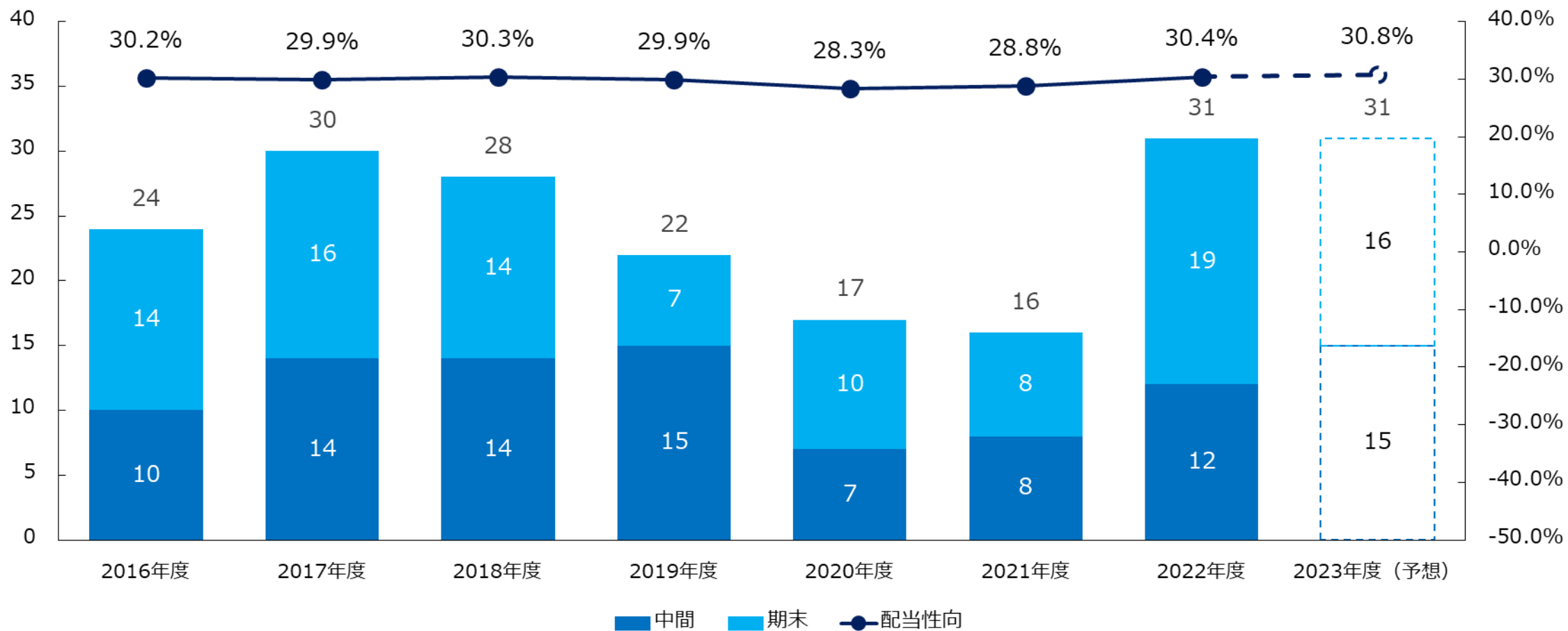


ROE・EPSの推移



配当方針

連結配当性向の目標を30%を目途とし、業績等を総合的に勘案し継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針とする。





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（現 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。